

平成26年4月30日  
 国立大学法人 山梨大学

## 基幹事業：災害時インフラネットワーク維持施策

### 【成果の概要】

- (1) 災害時における道路ネットワーク維持施策に関し、内陸活断層地震による道路ネットワーク被害を想定した場合の山梨県内にもたらされる経済損失の計測を行い、どの区間の復旧を優先すべきかを検討しました。
- (2) 道路の補修計画策定のために、仮想の道路について交通量や気候を考慮した舗装劣化指標（MCI）のシミュレーションを行い、その仮想データに対して、路面観測期間を変化させた場合に判断を誤る確率等を計算し、観測期間による違いを確認しました。

### 【今後の展開】

- (1) 緊急物資輸送への影響も加味し、どの区間を優先的に耐震化すべきかを総合的に検討します。
- (2) 道路の劣化データや観測データの入手に努めるとともに、コスト等を加味した現実的な望ましい観測期間について検討を行います。



表1 道路劣化指標（MCI）の意味

MCI	内容
10	全く欠陥が認められない(良)
8	幾分欠陥があるが、良好とみなされる
6	欠陥は多いが修繕は要しない
4	簡単な修繕を要する
2	大規模な修繕を要する

図1 曾根丘陵断層地震を想定した道路ネットワーク被害の復旧優先度



山梨大学 工学部土木環境工学科附属  
**地域防災・マネジメント研究センター**

Disaster and Environmentally Sustainable administration REsearch center, University of Yamanashi

**プレス発表資料**

平成26年4月30日  
国立大学法人 山梨大学

**特別事業：市町村災害対応力強化支援事業**

**【成果の概要】**

市町村の災害対応力強化を支援するため、

(1) 防災アドバイザーの山梨大学、県防災危機管理課及び各圏域地域県民センターにより、県内全13市を訪問し、各市の全庁的な災害対応の取り組み状況を確認しました。

(2) 全13市に共通して必要な『全庁的な災害対応のあり方』を支援するため、3月18日(火)防災新館で合同研修(13市+全町村参加)を実施しました。

《研修内容》

① 講義 『災害対策本部を核とした全庁的な応急対策のあり方について』  
～今回の豪雪災害対応を教訓として～  
講師 山梨大学 鈴木 猛康 氏

② 意見交換会

『2月の豪雪災害における各市町村の災害対応の体制について』

(3) 各市から聞き取った災害対応の取り組み状況から、各市ごとに支援プログラムを作成しました。

**【今後の展開】**

(1) 各市ごとに作成した支援プログラムに基づき、継続的に支援を実施します。

(2) 来年度についても引き続き、防災アドバイザーの山梨大学、県防災危機管理課及び各圏域地域県民センターにより、県内全14町村を訪問し、各町村の全庁的な災害対応の取り組み状況を確認します。

(3) 各町村から聞き取った災害対応の取り組み状況から、各町村ごとに支援プログラムを作成し、継続的に支援をします。



山梨大学 工学部土木環境工学科附属  
**地域防災・マネジメント研究センター**

Disaster and Environmentally Sustainable administration REsearch center, University of Yamanashi

**プレス発表資料**

平成26年4月30日  
国立大学法人 山梨大学

## 基幹事業：防災教育

### 【成果の概要】

防災に対する知識・技能を有し、地域における防災啓発活動や住民主体の防災対策を積極的に推進できる人材を養成し、地域全体の防災力を強化することを目的とした、甲斐の国・防災リーダー養成講座を開講しました。

- (1) 山梨県で起こりえる災害を踏まえた防災リーダー養成のためのカリキュラムを構築した。平日コースと休日コースをそれぞれ4日間実施しました。
- (2) 市町村防災担当職員や一般住民ら68人が講座を修了しました。
- (3) 特定非営利活動法人防災士機構の認定講座となっており、58人が防災士資格取得試験に合格しました。
- (4) アンケートの結果、ほぼ全員が、「研修内容は期待通り・概ね期待通りである」と回答し、今後の研修についても「継続した方が良い・どちらかという継続した方が良い」と回答しました。

### 【今後の展開】

- (1) 平成26年度についても、平成25年度とほぼ同内容、同期間で、甲斐の国・防災リーダー養成講座を実施します。
- (2) 県内で様々な部署や機関が実施している防災教育・啓発活動の情報を関係者で共有し、体系的な防災教育システムの確立を目的とした、「山梨防災教育研究会（仮称）」の創設に向けて、山梨防災教育研究会（仮称）準備会を立ち上げ検討を行います。



写真 地図を使った図上訓練の様子



写真 閉講式の様子



山梨大学 工学部土木環境工学科附属  
**地域防災・マネジメント研究センター**

Disaster and Environmentally Sustainable administration REsearch center, University of Yamanashi

**プレス発表資料**

平成26年4月30日  
国立大学法人 山梨大学

**基幹事業：情報システム**

**【成果の概要】**

- (1) 甲府地区消防本部、峡南消防本部、韮崎市の災害対応管理システムを構築し、山梨無尽システムは中北7市町、市川三郷町、そして2消防本部版の10システムと県のプロトタイプが構築できました。また、現場巡視職員のためのスマートフォン・アプリを開発しました。
- (2) 大規模河川の広域避難に関する実証実験に山梨無尽システムを適用し、中央市、甲府市の災害対策本部図上訓練を実施するとともに、県、8市町、消防本部の広域連携の災害対応を支援しました。
- (3) 市川三郷町の八之尻地区、黒沢地区の防災訓練に山梨無尽システムを適用しました。これらの防災訓練に、県契約の緊急速報メールの一括送信を実施しました。
- (4) 山梨無尽システムと連携できる住民用Webアプリ市川三郷町 SNS を開発しました。

**【今後の展開】**

- (1) 河川巡視に基づいた急流河川の氾濫危険度評価基準の構築と運用について、研究会を設立して検討を開始します。
- (2) 県とセンターが共同で実施する県内市町村の災害対策強化支援事業を通して、災害対応管理システムを用いた県、市町村の災害情報共有に係る実践的活動を支援します。
- (3) 住民用のスマートフォン・アプリの実用化を図ります。(新潟県見附市に適用)



写真 広域避難実証実験



写真 市川三郷町SNSによる安否確認



# 山梨大学 工学部土木環境工学科附属 地域防災・マネジメント研究センター

Disaster and Environmentally Sustainable administration REsearch center, University of Yamanashi

## プレス発表資料

平成26年4月30日  
国立大学法人 山梨大学

### 基幹事業：集落の孤立化対策

#### 【成果の概要】

- (1) 南アルプス公園線・雨畑大島線の2県道の現地調査を実施しました（山梨県県土整備部道路管理課，山梨県峡南建設事務所身延道路課，山梨大学）。落石が確認され，本事業の必要性を共有しました。
- (2) 集落が孤立する可能性が高い地区を抽出する手法を検討しました。その結果，がけ崩れそのものの予知は現在の技術では難しいと判断し，過去の履歴等から地区を抽出することで合意しました。今後，がけ崩れの要因の研究や，県や市町村の有する記録を集積して過去の土砂災害履歴に関するデータベースを構築する必要性について合意しました。

#### 【今後の展開】（山梨大学が実施）

がけ崩れが発生する素因（地形・地質・地盤などの要因）を検討し，誘因（気象など）との相互作用などを研究します。



写真 現地調査当日に発生した落石

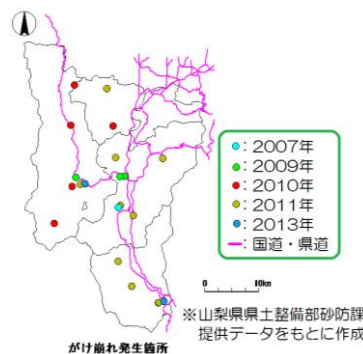


図 峡南地域におけるがけ崩れ発生箇所

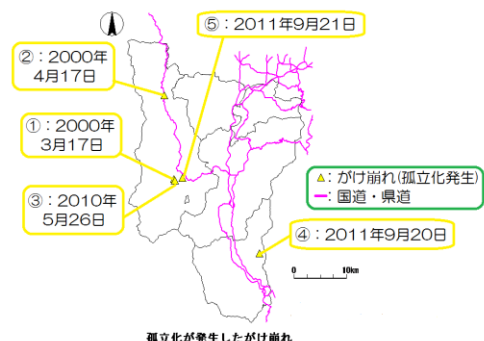


図 孤立化が発生したがけ崩れ